

「リオ+ 20」 ジャパンイブニング

TOHOKU FORWAED に岩手県人会参加

6月20日からリオデジャネイロで開催された、世界環境会議「リオ+20」の各国PRパビリオンや「日本のグリーンイノベーション復興へ



の力、世界との絆」をテーマに日本館があり、隣接会場でブラジル県人会は「餅搗き」で応援した。

イベントには岩手県、外務省から依頼され、重たい臼や用具、材料、鏡割りの樽などワゴン車に積み込み、千田会長夫婦、多田副会長の3名で19日夜発21日早朝帰着の強行軍だった。



リオのチジュッカ区が会場で、道々警察車両や軍隊が物々しい警戒網を張っていた。会場へ20日夜明け前着。道路を挟んで向う側に国際会議場があった。

会場には環境に配した各国のパビリオンが立ち並んでいた。日本のパビリオンには、政府、団体、企業など30件ほどのスタンドが設けられ、被災3県知事からのメッセージや写真展示などあり、サンパウロから



味の素の取締役できたかみしゅつしんかとう北上出身の加藤さんがPRに努めていた。各スタンドは英語での説明文だけだった。主催国のポスターや日本語での

説明が少しはあっても良いのでは、パビリオンはテント張りであるが、中には外壁を工夫して国をイメージした会場があった。日本館もイメージがあって欲しいと感じた。因みに「日本館」へ期間中の入場者は約2万人だったとの事。

一方ジャパンイブニング会場では、東北地方の復興状況を伝えるセミナー、被災3県の文化、物産紹介などの映像が流れていた。



午後、岩手県庁から小野博復興企画局課長、いしきだひろみぶんかこくさいかちよう石木田浩美文化国際課長、いとうのりたかこくさいかしゅさらいじよう伊東義学国際課主査が来場。ちゅうしよくともこんだんひさいち屋食を共に懇談した。被災地の復興について聞いてみると、やはり計画通りには諸問題で進んでいないとの事であった。

3時から会場の入替えが行われ、岩手、宮城、福島3県の復興

をアピールするスタンドが設けられた。被災県の酒などが主に展示され岩手は南部美人であった。

ジャパンデーのレセプションでは、玄葉光一郎外務大臣が福島県会津若松の放射線はニューヨークや上海と同じ線量で心配はないと云っ

ていた。この放射能問題で日本から輸入された食品が昨年暮れからサントス港でストップし、店



には日本食品が出回ってない、多くの日本食ファンを困らせている。現在は紛い物が多い中国や韓国産で凌いでいるが、日本産は品質が全く違う。日本政府はブラジル政府や国際会議などで日本製品は安全だとアピールし訴えたのだろうか。

リオ日本人学校の生徒代表たちが、被災地へ復興を祈願したメッセージを披露、また東北三県の代表者へ短冊に応援メッセージを吊るした七夕飾りを贈呈した。



当会か
ら持参した
南部美人
の「樽」
で、玄葉
外相、3
県代表者
が鏡開を
行い、純

まいこしゅ げんぼがいそら かんぱい 米古酒で玄葉外相の乾杯でレセプションが始まった。

いよいよ県人会の出番で「餅搗き」を会場で披露。参加者は久しぶりに餅搗き風景を堪能したようである。搗いた餅は丸められ、岩手産の醤油を使った「醤油餅」「黄粉餅」「ゴマ餅」「納豆餅」「餡子餅」の5種類を会場で振舞った。80%が日系人のせいか納豆餅が喜ばれた。また岩手産のワカメに味付けし試食頂いた。ニカラグアの環境大臣は、ワカメが気に入りお代りしたりしたと石木田課長談。

会場には鹿田リオ日伯文化体育連盟会長、オイスカの中西理事長や馴染みの渡邊副理事長も参加され一時の懇談が出来た。

最後に、県人会として母県岩手をお手伝いできたことや、県職員と

の交流など様々な方たちと懇談出来た事が良かったと思う。なおイベント会場での参加者は300名を超えたそうである。

